

# 大人が絵本を 第91回 ありがとう！



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

## 『おおきなかぶ』と『てぶくろ』

「うんとこしょ どっこいしょ」。リズムカルなロシアの昔話『おおきなかぶ』は、日本の子どもたちにも70年もの長い間、親しまれてきました。昨年は、絵本の日アワード2021で『おおきなかぶ』によるエピソードが“元気が湧く賞”を受賞し、コロナ禍の中、元気を与えた絵本です。株式会社トーハンが累計発行部数100万部以上のロングセラー絵本を紹介する「ミリオンぶっく」では、調査開始からベスト10入りしていて、2021年は累計316万部を発行し、第7位にいます<sup>1)</sup>。

この『おおきなかぶ』と、「ミリオンぶっく」でいつも仲良く肩を並べている常連絵本は、ウクライナの民話『てぶくろ』です。2021年は322万部で5位に位置し、人気は不動です。『おおきなかぶ』も『てぶくろ』も、平和と共生がこめられたロングセラーの昔話です。

ロシアによるウクライナへの軍事侵略が始まった2月24日以降、全国各地の書店でこの2冊を並べて展示して平和を訴えるコーナー展開が相次いでいます。

ロシアの昔話『おおきなかぶ』によるエピソードが2021年絵本の日アワード元気が湧く賞を受賞したときは、うれしい気持ちでいっぱいになりました。しかし、年明けにロシアが軍事侵攻を始めたニュースが届くと、ウクライナの方々にわが身を投じて、苦しくてかなしくて胸を締め付けられる思いでいっぱいです。

そんなとき、ふと脳裏に浮かんだ絵本は、松岡享子先生の『うれしいさん かなしいさん』でした。

## 『うれしいさん かなしいさん』

私たちの毎日は、「うれしい」と「かなしい」の明暗の繰り返しです。でも最後は、「めでたし めでたし」で「うれしいさん」になる、そのような何気ない日常をシンプルに表現したお話が、『うれしいさん かなしいさん』です。

『うれしいさん かなしいさん』  
松岡享子 作・絵  
(東京子ども図書館)



ロシアの侵攻は、「かなしい」ばかりです。プーチン大統領へ自国の誇るべき昔話『おおきなかぶ』と『てぶくろ』を届けたいものです。

『うれしいさん かなしいさん』は、東日本大震災の復興支援のために生まれた絵本です。作者の松岡享子氏といえば、ディック・ブルーナ作「うさこちゃん」や『しろいうさぎとくろいうさぎ』(福音館書店)などをはじめとする、海外のすぐれた児童書の翻訳者として有名です。翻訳活動の他にも、『なぞなぞのすきな女の子』(学研プラス)、『おふろだいすき』(福音館書店)など創作も多数あります。

そんな松岡氏をはじめて文と絵を単独で描いた記念すべき絵本が『うれしいさん かなしいさん』なのです。

児童文学翻訳家で、絵本作家・研究家の松岡享子氏が1月25日に旅立たれた報せを受けると、全身全霊が「かなしいさん」に覆われました。

## 『ふしぎの住める空間』を知っていますか？

子どもの歯科医療に従事する大人の皆さまの心に、かつてサンタクロースがいた部屋はありますか。

# 手にするときは！

松岡 享子 先生

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

松岡享子氏は、著書『サンタクロースの部屋』（こぐま社）で次のように綴っています。

心の中に、ひとたびサンタクロースを住ませた子は、心の中にサンタクロースを収容する空間をつくりあげている。サンタクロースその人は、いつかその子の心の外へ出て行ってしまいうだろう。だが、サンタクロースが占めていた心の空間は、その子の中に残る。この空間がある限り、人は成長に従って、サンタクロースに代わる新しい住人を、ここに迎え入れることができる<sup>2)</sup>。

子どもの本と発達について多くの示唆を与えてくださる松岡享子氏の訃報にことばを失ったのち、気づくと私の心の「サンタクロースがかつていた空間」に、「うさこちゃん」や『なぞなぞのすきな女の子』、「とこちゃん」が一斉に濃く姿を現していたのです。松岡氏はサンタクロースのように、大切な宝物を心に残してくれたのです。

『とこちゃんはどこ』  
松岡享子 作  
加古里子 絵  
(福音館書店)



そんな心の空間と、その収容能力について、「目に見えないものを信じるという心の働きが、人間の精神生活のあらゆる面でどんなに重要か、のちに、いちばん崇高なものを宿すかもしれない心の場所が、実は幼い日にサンタクロースを住ませることによってつくられる」と述べる松岡氏は、目に見えないものを見る力を持つこと、想像することの大切さを示しているのです<sup>2)</sup>。その相手とは、私たち大人なのです。

大人が、子どもの心の「ふしぎの住める空間」をつぶしたり、信じる力を奪わないでと訴えているのです。

## 半世紀にわたる草の根の活動が果たした功績に感謝をこめて

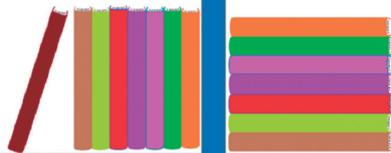
松岡享子氏は、児童図書館員や絵本司書、そして家庭文庫運営者と読書ボランティアなど子どもと本の橋渡し役を担う大人にとって、偉大なる師です。

その松岡氏が師と仰ぐのは、「うさこちゃん」シリーズ(福音館書店)の初代翻訳者である石井桃子氏で、戦後日本の児童文学をいちから築いた高名な児童文学者です。地域の子どもたちに本を提供する家庭文庫「かつら文庫」を1958年に開設し、子どもの本の普及者として今日までの道を切り拓いた開拓者でもあります。

松岡氏はそれに続き、1967年6月に「松の実文庫」を開設して子どもの本の普及活動に奔走されました。

この2つの文庫と、家庭文庫の走りである「土屋児童文庫」を母体として、松岡氏や石井氏らが設立したのが、東京子ども図書館です。時は1974年、私立図書館として新たな幕を開けると、より一層、子どもの読書普及活動を展開し続けたことが評価され、2010年に内閣総理大臣の認定を受けて、公益財団法人となるのです<sup>3)</sup>。

「子ども図書館」という施設の草分けである“東京子ども図書館”の初代理事長を務められたのが松岡享子氏で、児童図書館員のあるべき姿を直接的にも間接的にも導いてくださいました。理事長41年の歴任は、現役若手図書館員にとって「東京子ども図書館」=「松岡享子氏」、つまりは子ども図書館の牽引者としてのイメージが強くインプットされていることでしょう。司書歴30年の私にとっても、松岡氏の著書ならびに言



動すべてを見て学び、背中を追う師匠です。

## チェアサイドストーリーにおすすめはコレ

『しろいうさぎとくろいうさぎ』は松岡享子氏のデビュー作で、翻訳家からはじまりました。『大草原の小さな家』のイラストで有名なガス・ウイリアムズ氏が1958年にアメリカで出版した作品を、松岡氏の翻訳で、1965年6月1日初版を出版するのです。松の実文庫を開設するちょうど2年前に当たります。そのバイタリティと実践力に平伏するばかりです。

原題は『The Rabbit's Wedding』ですが、それを直訳することなく『しろいうさぎとくろいうさぎ』と表現した松岡享子氏のセンスについて、本連載第41回の「絵本の日アワード 第1回エピソード大賞」でもお話したとおりです<sup>4)</sup>。

以後「フランス」シリーズや「パディントンの本」シリーズなど、海外の児童書の数々を日本の子どもたちに届け続けました。翻訳活動と並行して、創作活動も精力的にされています。はじめての創作は昔話風の「童話」になりますが、『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』です。1968年に刊行すると、翌年に第16回サンケイ児童出版文化賞を受賞するのです。

『くしゃみくしゃみ  
天のめぐみ』  
松岡享子 作  
寺島隆一 画  
(福音館書店)



表題のくしゃみのお話の他、しゃっくり、いびき、おなら、あくびと、人間の生理現象をテーマに全5話で構成されています。子どもたちが大好きな“おなら”などの生理現象なのですが、言語感覚に秀でられた松岡氏のこと、まったく下品にならず、ハッピーエンドで終わるのですから、読後は明るく楽しい気持ちになれるのです。歯科医院のチェアサイドストーリーにも最適です。フッ素塗布中の4分間、歯科衛生士や受付のお姉さんと読みあうと絆が深まるでしょう。

## 伝えよう！今こそ育みたい子ども像

松岡氏が手掛けた創作絵本と翻訳書は、実に200冊以上に及びます。図書館業界の人間にとって、これら以外にも、前述した『サンタクロースの部屋』などの研究・評論書は、現場の生きたテキストです。著書『子どもと本』で語っている一節をご紹介します。

くりかえしお話を聞いて、空想することに“習熟”した子どもは、自分でも空想の糸をつむぐようになり、自分のなかに空想の世界をつくりあげることができるようになります。現実とは別に、自分だけの内なる世界をもつことが、今を生きる上でどんなに大切か。昨今の子どものいじめによる自殺のニュースなどに接すると、もしかすると、今の子どもたちには、あまりにも限られ、閉じられた空間しか見えていないのではないかと心配になります。空想の世界は、そこに逃げ込み、休息し、新しい戦いに備えて力を蓄える場であり、現実がない、もっと広い世界への窓を開いて見せてくれる場なのです<sup>5)</sup>。

つまりは、サンタクロースを住ませた子の、その後の成長過程で大切な道すじを示唆しているのです。豊かな想像力と豊かな創造力を使って、自分の内なる世界を作り上げることが成長には必要不可欠で、それらを繰り返して、自分で考えて自分の人生を切り拓いていく力を身に付けてほしいと願っているのです。

## コロナに心折れない世界をつくろう！

上記の『子どもと本』の引用文は2015年刊行の岩波新書によるものですが、コロナ禍の今を語っているように思えてなりません。そして、2022年、ロシアに侵攻されたウクライナの子どもたちは、絵本の世界にひとときでも逃げられているでしょうか。

コロナや戦禍で限られた空間、閉じられた空間に追いやられた子どものみならず大人たちがたくさん



います。私たち人間に与えられた優れた能力は、空想すること、想像することです。空想の世界に逃げ込み、休息し、新しい戦いに備えて力を蓄える場となるのです。

ビブリオキッズのYちゃんは、空想することに“習熟”しており、幼稚園が学級閉鎖になっても、「マスク」がお約束になってもへこたれてなんかいません。お母さまも予測しない新たな空想の糸を自分で紡ぎ、自分の中に空想の世界を作り上げて、広い世界の窓をどんどん開いてとても楽しそうです。プリンセスは広がって、先日は“緑茶姫”になり、今日は“お花姫”です。「ビブリオがあって良かったです」とは、緑茶姫になったときのお母さまのことばです。

松岡享子先生、Yちゃんから、子どもたちから目が離せません。どうか、観察されて微笑んでください。



### み～んな大好き「うさこちゃん」

松岡享子氏を語るとき、ブルーナ氏の「うさこちゃん」を取り上げないわけにはいきません。松岡氏の代名詞が「うさこちゃん」というお父さま、お母さまも多いことでしょう。絵本や児童書が本職ではない歯科医療従事者の皆さまも同じではないでしょうか。

オランダ生まれの「ミッフィー」(本国名「ナインチェ(Nijntje)」)を日本に連れてきた人物は、敏腕編集者である、福音館書店の松居直氏です。『おおきなかぶ』の編集者・松居氏が、1963年頃ミッフィーの版權をとって、石井桃子氏に翻訳を依頼したのです。

こうして「うさこちゃん」を日本の子どもたちに届け続けていた石井氏は、あるとき松岡氏に「もう、あなたやって」と翻訳を引き継いでもらうのです<sup>6)</sup>。ちょうど9作目の『うさこちゃんとじてんしゃ』(1984年)からバトンタッチされ、以後「まつおか

『うさこちゃんとじてんしゃ』  
ディック・ブルーナ作・絵  
まつおかきょうこ 訳  
(福音館書店)



きょうこ やく」の「うさこちゃん」になるのです。

しかし、松岡氏にとってブルーナ作品はじめての翻訳はもっと前で、1972年発行の『こいぬのくんくん』『わたしほんがよめるの』(共に福音館書店)など4冊が真の意味での引き継ぎ作品になります。



### 心にしみる松岡享子氏のことば

国内外の図書館活動を半世紀以上にわたって、ただ子どもたちのためだけに尽力された松岡享子氏は、世紀を越えた2021年秋、文化功労者に選ばれました。その際の松岡氏のことばを最後にご紹介しましょう。

地球上に難問が集積し、その解決に人智を結集する必要が生じている現在、わたしたちが頼りにするのは、なんといっても未来のポテンシャルをもった子どもです。彼らとそのポテンシャルを最大限にのばし、果敢に難題に向かって、その解決にすすんでくれるように祈らずにはいられません。そのために、ひとりひとりの子どもが、しっかりしたことばの力を身につけ、これまでに集積された、人類の智慧がある文学作品から多くを吸収し、将来へ向けて生かすことが望めます<sup>7)</sup>。

子どもたちの未来を、隣人の生きる権利を奪わないで。人類の願いです。



### 文献

- 1) トーハン: ミリオンぶっく2021, トーハン, 東京, 2021.
- 2) 松岡享子: サンタクローズの部屋-子どもと本をめぐる, こぐま社, 東京, p.9-11, 1978.
- 3) 松岡享子: うれしいさん かなしいさん, 東京子ども図書館, 東京, 2012.
- 4) 松岡享子: 作者たちの言葉で読み解く あの絵本の輝きの秘密『しろいうさぎとくろいうさぎ』, 月刊MOE, 37(11), p.30, 2015.
- 5) 松岡享子: 子どもと本(岩波新書), 岩波書店, 東京, p.146-150, 2015.
- 6) 松岡享子: 「松の実文庫」で子どもたちに語ることと、翻訳・創作活動, 光文社古典新訳文庫コラム「不実な美女」たち-女性翻訳家の人生をたずねて, Vol.4, 光文社HP <https://www.kotensinyaku.jp> 2017/11/17
- 7) 松岡享子: 文化功労者に選ばれて, 東京子ども図書館HP <https://www.tcl.or.jp/kyokomatsuoka/message/> 2021年10月